

# 株式会社仁張工作所 環境経営レポート 2022

期間：2021年12月21日～2022年12月20日



2023年3月31日発行

# 環境経営レポート目次

1. ご挨拶
  2. 会社概要
    - 2-1. 会社概要
    - 2-2. エコアクション対象範囲
    - 2-3. 経営理念・行動規範
      - ・品質方針
  3. 環境経営方針
  4. EA21推進組織及び役割・責任
    - ・権限
  5. 環境経営目標
    - 5-1. 環境経営目標
    - 5-2. 2022年度計画
  6. 2022年度達成状況
    - 6-1. 環境経営目標達成状況
    - 6-2. 結果と評価
    - 6-3. 総量実績推移
  7. マテリアルバランス
  8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟の有無
    - 8-1. 法令遵守状況
    - 8-2. 違反・訴訟の有無
    - 8-3. 近隣よりの苦情の有無
  9. 2022年度の取組み
    - 9-1. 非常事態処理訓練
  10. その他の取組み
    - 10-1. 地域の清掃活動
  11. マネジメントレビュー
    - 11-1. 経営者による全体評価
    - 11-2. 次年度に向けて(アクション)
- あとがき

# 1. ご挨拶

当社は2000年に品質マネジメントシステムISO9002を認証取得し、環境マネジメントシステムについては、2003年度に環境省が実施したエコアクション21試行版によるパイロット企業として参画して以来、認証取得して20年目を迎えました。

現在は「品質活動と環境活動が重なり合った経営マネジメントシステム」として経営の有効なツールと認識し、生産活動を進めております。

国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)と自らの環境経営との関連性を見だし、自社の事業活動と持続可能な社会づくりとのベクトル合わせができるように取り組みました。

ここに2022年度の環境経営活動の結果をまとめ、報告いたします。

代表取締役社長 仁張 茂<sup>2</sup>

## 2. 会社概要

### 2-1 会社概要

1964年10月1日、東海道新幹線が開通した記念すべき日に産声を上げた仁張工作所は 2021年10月1日に創業57年目を迎えました。創業以来、弊社は主としてスチールやステンレスの薄鋼板を加工して各種保管庫、キャビネット、デスクなどを設計・製作するほか、幅広い用途を持つ箱物板金製品・各種精密板金製品を提供してきました。

現在では多業種・多業界における一次サプライヤーとしての板金加工部品供給を筆頭にOEM製品やオーダーメイド、オリジナル製品など多様な製品を提供し続けています。ご興味のある方は下記HPもご覧ください。 URL <https://nimbari.co.jp/>



## 2. 会社概要

### 2-2 エコアクション対象範囲

事業所名 株式会社仁張工作所

URL <https://nimbari.co.jp/>

エコアクション21の対象範囲と所在地(2023年3月現在)

◎ 本社工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目14番6号

◎ 仕上棟・仕上第二棟 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目8番26号

社員数 88名 売上高 1,692百万円

環境経営活動担当者の連絡先

環境管理責任者 仁張 茂 事務局 総務経理部

連絡先 Tel : 072 - 962 - 2831 Fax : 072 - 963 - 4183

E-mail [sakamoto@nimbari.co.jp](mailto:sakamoto@nimbari.co.jp)

事業活動（認証・登録範囲）

精密板金加工製品、別注スチール製家具・什器、箱物板金加工製品の製造  
（「環境経営レポート2022」についての問合せは事務局までご連絡ください）

## 2. 会社概要

### 2-3 経営理念・行動規範・品質方針

#### 経営理念

1. 私たちは板金加工を通じて、ものづくり、仕事づくり、ひとづくりに努力します
2. 私たちはお客様の満足を通じて仕事に誇りを持ち よりよい生活を実現し  
働きがいのある会社づくりに努力します
3. 私たちは常に新しい板金加工技術について積極的に学び 自分たちのものとし  
共有化することによって 技術レベルの高い信頼される会社を目指します

#### 行動規範

1. 規律正しく行動し、仕事に対して誠実になろう
2. 決められた事を守り、妥協しないプロ集団になろう
3. 社員は仲間 相手の考えを受け止め、自分の考えを入れこみ“私たち”の考えをつくろう

#### 品質方針

「品質に責任を持ち、顧客の信頼に応える」

# 3. 環境経営方針

作成日：2003年10月1日

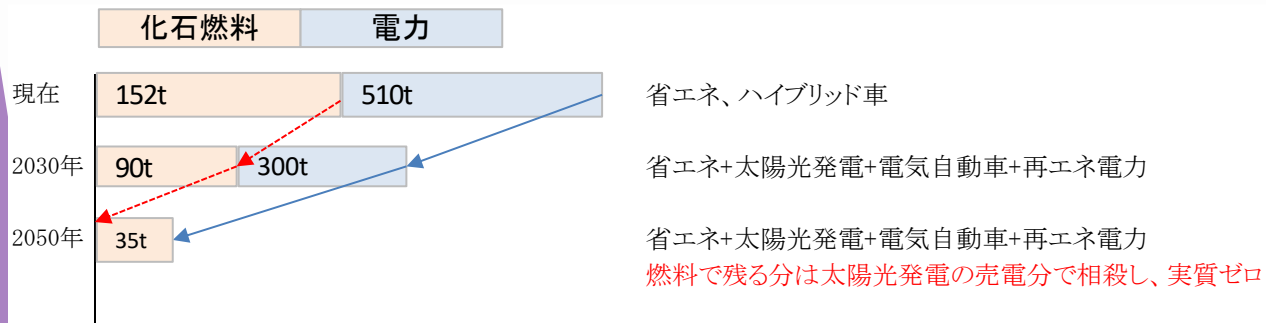


私たち株式会社仁張工作所は 経営理念に基づき 板金加工製品のモノづくり事業を遂行するにあたり 環境影響をとらえ 社員の育成と成長を通じて 自然資源を維持する ‘地球にやさしい’ 取組みを展開します

1. 現在及び将来の事業活動において 環境経営目標を定め 技術的 経済的に可能な範囲で継続的改善に努めます
2. 品質を良くすることは環境につながることを理解し、生産性向上によるエネルギーの有効活用と共に 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、排水量の削減、化学物質の削減と適正管理に努めます。
3. 働き方を改善することで、生産性向上に努め、当社の企業価値を発信します。
4. 適用される環境関連法規及び当社が個別に同意した要求事項を遵守します。
5. 環境経営方針を教育・啓発活動を通じて全社員に周知すると共に、地域社会や行政、取引先・外部委託業者などにも情報を開示し良好なパートナーシップを維持することで理解と協力を求め、環境に関する意識の向上を図ります。

2022年12月21日改訂 代表取締役 仁張茂

## カーボンニュートラルに向けた取組



# 4. EA21推進組織及び役割・責任・権限



全社員



# 5. 環境経営目標

## 5-1 環境経営目標



※毎年目標は、前年度実績の-2~5%とします(粉体塗料比以外)

番号	目標項目 (2021年度をベンチマーク)	2021年度 実績	2022年度 目標
E-1	CO <sub>2</sub> 削減 (原単位)	399.3kg-CO <sub>2</sub>	389.6kg-CO <sub>2</sub>
E-2	産業廃棄物削減-5%	18,795kg	17,855kg
E-3	水使用量の削減 (原単位) -5%	2.5m <sup>3</sup>	2.3m <sup>3</sup>
E-4	化学物質使用量の把握	100%対応	100%対応
	シナーの購入量削減 (原単位) -3%	7.7ℓ	7.5ℓ
	粉体塗料使用比率増加 (原単位) +3%	27.2%	28%
E-5	環境負荷の削減 顧客からの調査依頼に対して100%対応する	100%対応	100%対応

※電力のCO<sub>2</sub>換算係数 0.379kg- CO<sub>2</sub> /kWh

原単位は生産高100万円あたり

# 5. 環境経営目標

## 5-2 2022年度計画



原単位は生産高100万円あたり

### E-1. CO<sub>2</sub>の削減

取組み内容	目標値	実行部署
1.作業・設備の見直しによる電力削減	原単位-3% 731kWh	全部課
2.品質不具合を削減し手直しや再製作のロスを防止する	クレーン件数60件以下 場内不具合100件以下	
3.塗装の作業改善、品質改善で社内生産でのLPG削減	LPG原単位-3% 12.7m <sup>3</sup>	
4.クールビズ・ウォームビズを実施し冷暖房用燃料の削減	都市ガス原単位-2% 6.7m <sup>3</sup> 灯油原単位-3% 0.6ℓ	
5.物流の効率化で車燃料削減	車燃料原単位-2% 6.8ℓ	

### E-2. リサイクルを含む産業廃棄物の削減

取組み内容	目標値	実行部署
1.塗装の品質及び生産改善により引火性廃油及び汚泥の排出削減	排出量原単位-5% 10.1kg	塗装G
2.産業廃棄物の削減	排出量-5% 17,855kg	全部課

# 5. 環境経営目標

## 5-2 2022年度計画(続き)



原単位は生産高100万円あたり

### E-3. 総排水量の削減

取組み内容	目標値	実行部署
2.給水設備点検を行い、水漏れを防止して一般水使用量削減	原単位-5% 2.3m <sup>3</sup>	全部署

### E-4. 化学物質使用量の把握・削減

取組み内容	目標値	実行部署
1.化学物質使用量の把握(把握するのはPRTR制度対象物質)	未把握物質:0件 毎月使用量把握100%	総務
2.シナー購入量の削減 前処理ラインの利用でシナー拭きを減らす	購入量原単位-3% 7.5ℓ	塗装G
3.粉体塗装適用製品を広げVOCを削減する	粉体塗料使用比率+3% 28%	塗装G,技術課

### E-5. 環境負荷の削減

取組み内容	目標値	実行部署
1.環境に配慮した製品設計・部材調達 RoHS,REACH対応等顧客要求に応える	100%対応	技術課
2.有害化学物質含有量の少ない部材調達ならびに供給者ネットワーク確立 顧客からのネットワーク上での調査依頼に対して、100%対応する	100%対応	総務

# 6. 2022年度達成状況

## 6-1 環境経営目標達成状況

原単位は生産高100万円あたり



番号	計画項目	監視項目	個別目標値	実績	差異	評価
E-1	1.作業・設備の見直し、工場内LEDの検討による電力削減（原単位）	電力kWh (kg-CO <sub>2</sub> )	731kWh (277.0)	538kWh (203.7)	-193kWh (-73.3)	😊
	2.塗装の作業改善、品質改善によるLPG削減（原単位）	LPGm <sup>3</sup> (kg-CO <sub>2</sub> )	12.7m <sup>3</sup> (78.8)	12.1m <sup>3</sup> (75.4)	-0.6m <sup>3</sup> (-3.4)	😊
	3.カービズ・ウォームビズを実施し冷暖房用燃料の削減（原単位）	都市ガスm <sup>3</sup> 灯油ℓ (kg-CO <sub>2</sub> )	6.7m <sup>3</sup> (15.3) 0.6ℓ (1.5)	6.8m <sup>3</sup> (15.6) 1.2ℓ (2.9)	+0.1m <sup>3</sup> (+0.3) +0.6ℓ (+1.4)	⚠️
	4.物流の効率化で車燃料削減（原単位）	ガリソℓ (kg-CO <sub>2</sub> ) 軽油 (kg-CO <sub>2</sub> )	1.9ℓ (4.4) 4.9ℓ (12.6)	2.0ℓ (4.7) 4.0ℓ (10.3)	+0.1ℓ (+0.3) -0.9ℓ (-2.3)	😊
		合計原単位 (kg-CO <sub>2</sub> )	757.8 (389.6)	564.1 (312.6)	-193.7 (-77)	😊
E-2	1.塗装の品質及び生産性改善により引火性廃油及び汚泥の排出削減	原単位(kg)	10.1kg	12.6kg	+2.5kg	❌
	2.産業廃棄物の削減	原単位(Kg)	9.9kg	3.5kg	-6.4kg	😊

# 6 . 2022年度達成状況

## 6-1 環境経営目標達成状況(続き)



原単位は生産高100万円あたり

番号	計画項目	監視項目	個別目標値	実績	差異	評価
E-3	2.給水設備点検を行い、水漏れを防止して一般水使用量維持	原単位(m <sup>3</sup> )	2.3m <sup>3</sup>	1.5m <sup>3</sup>	-0.8m <sup>3</sup>	😊
E-4	1.化学物質使用量の把握 (把握するのはPRTR制度対象物質)	未把握件数 使用量把握率	0件 100%	0件 100%	0	😊
	2.シンナー購入量削減 前処理ラインの利用でシンナー拭きを減らす	原単位(ℓ)	7.5ℓ	5.8ℓ	-1.9ℓ	😊
	3.粉体塗装適用製品を広げVOCを削減する	使用比率(%)	28%	26.1%	-0.6kg	⚠️
E-5	1.環境に配慮した製品設計・部材調達 RoHS,REACH対応等顧客要求に応える	顧客対応率	100%	100%	0	😊
	2.有害化学物質含有量の少ない部材調達、 供給者ネットワーク確立 顧客からの調査依頼に応える	調査対応率	100%	100%	0	😊

# 6. 2022年度達成状況

## 6-2 結果と評価



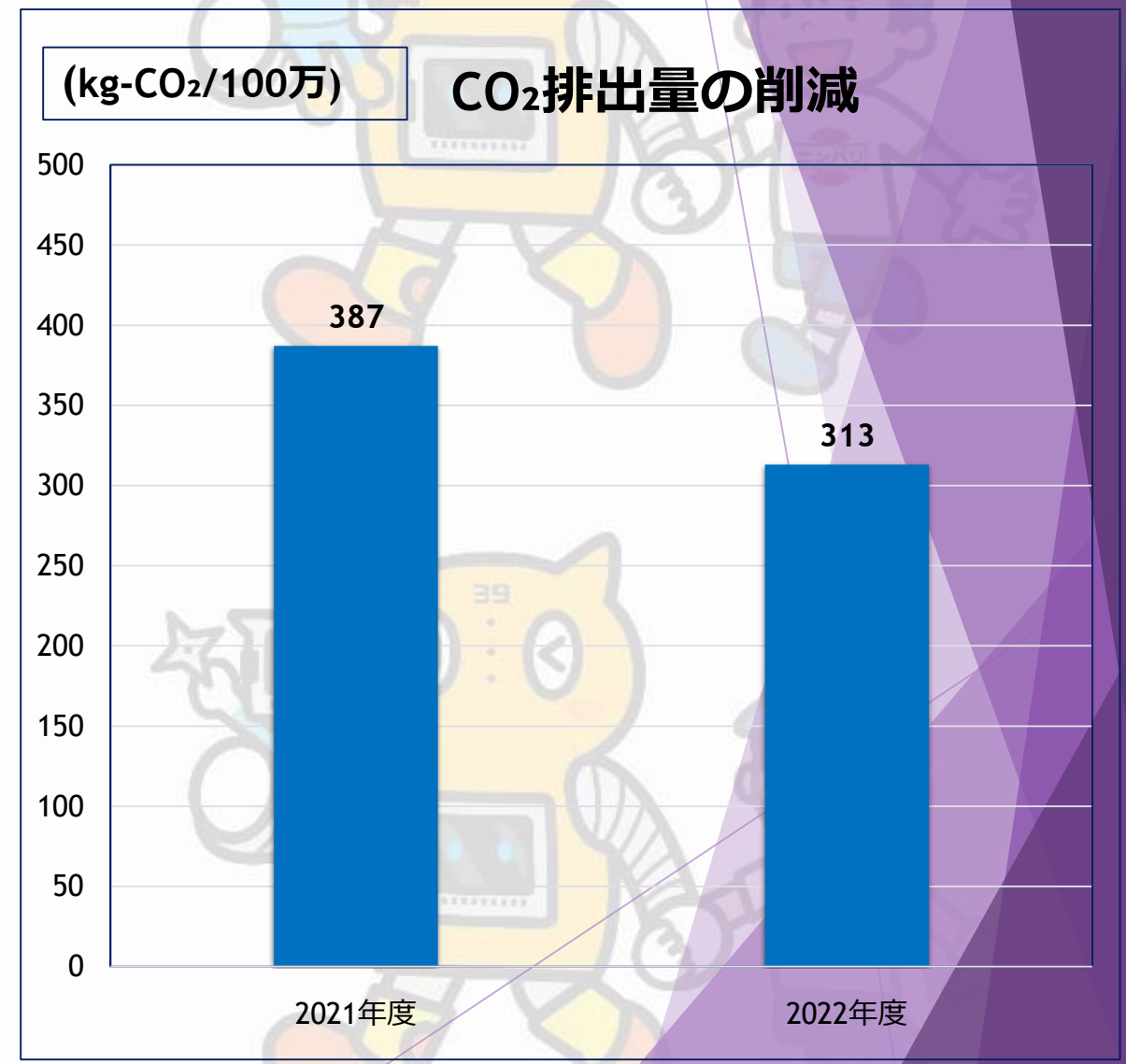
### E1. 【CO<sub>2</sub>排出量の削減】

CO<sub>2</sub>排出量総量は“718,345”から“529,205”へと削減できました。

また、原単位目標値“387”に対して“313”と目標値を大幅にクリアすることができました

検討していた工場内のLED化を一部進めたことが電気使用量削減に繋がったと思います。

来年度は更に、LED化を進めて行こうと思います。



# 6. 2022年度達成状況

## 6-2 結果と評価 (続き)

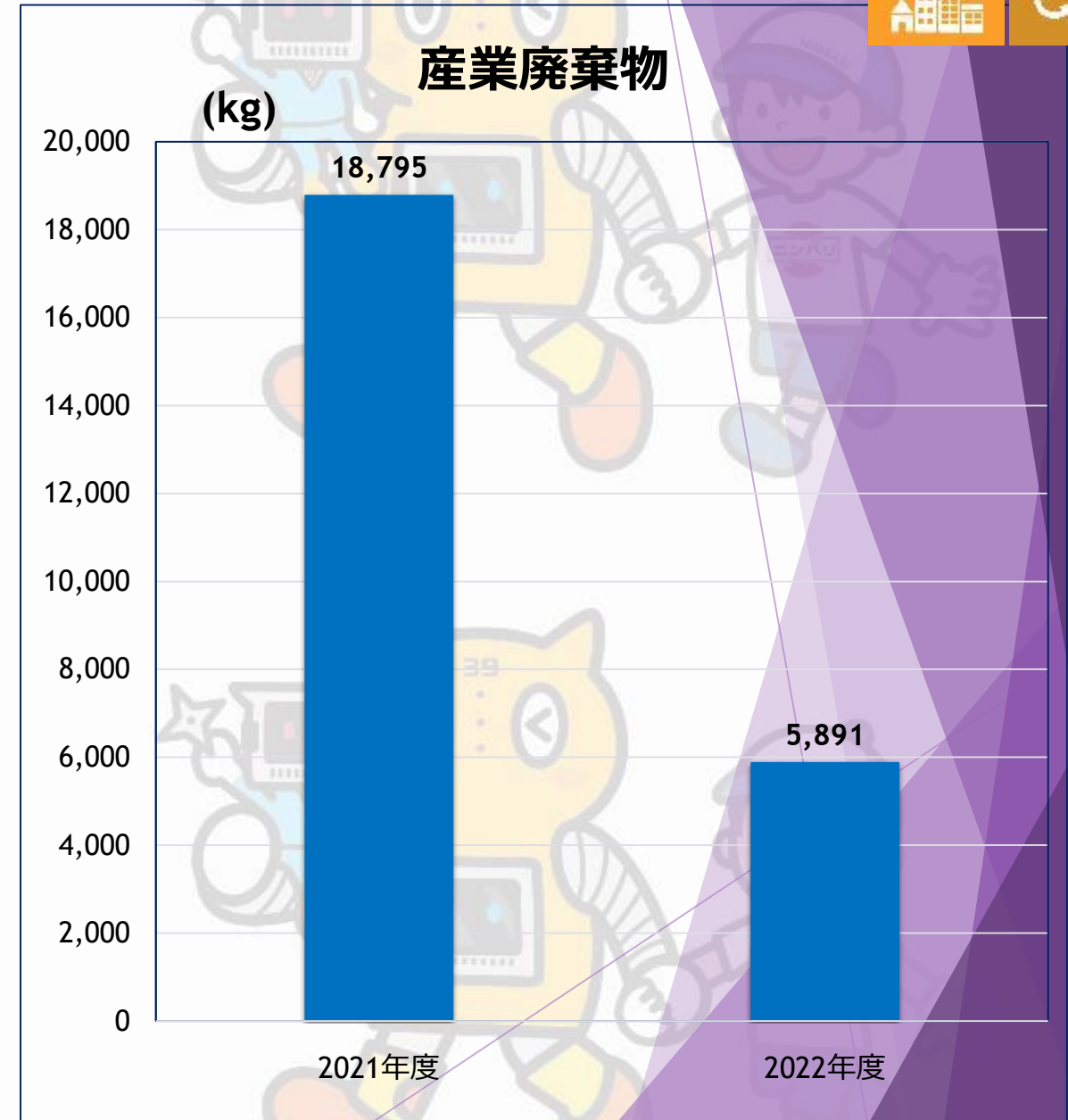
### E2-1. 【産業廃棄物削減】

産業廃棄物総量、昨年比は右の通りです

大きな要因は、木材パレットの廃棄を”0“に出来たことです。

近隣の会社様が、木材の引き取りを希望され産廃業者に依頼することがなくなりました。

来年度は、SDGsマークの表示を増やし分別意識を定着させることで、ビニール系廃棄物削減に取り組めます



# 6. 2022年度達成状況

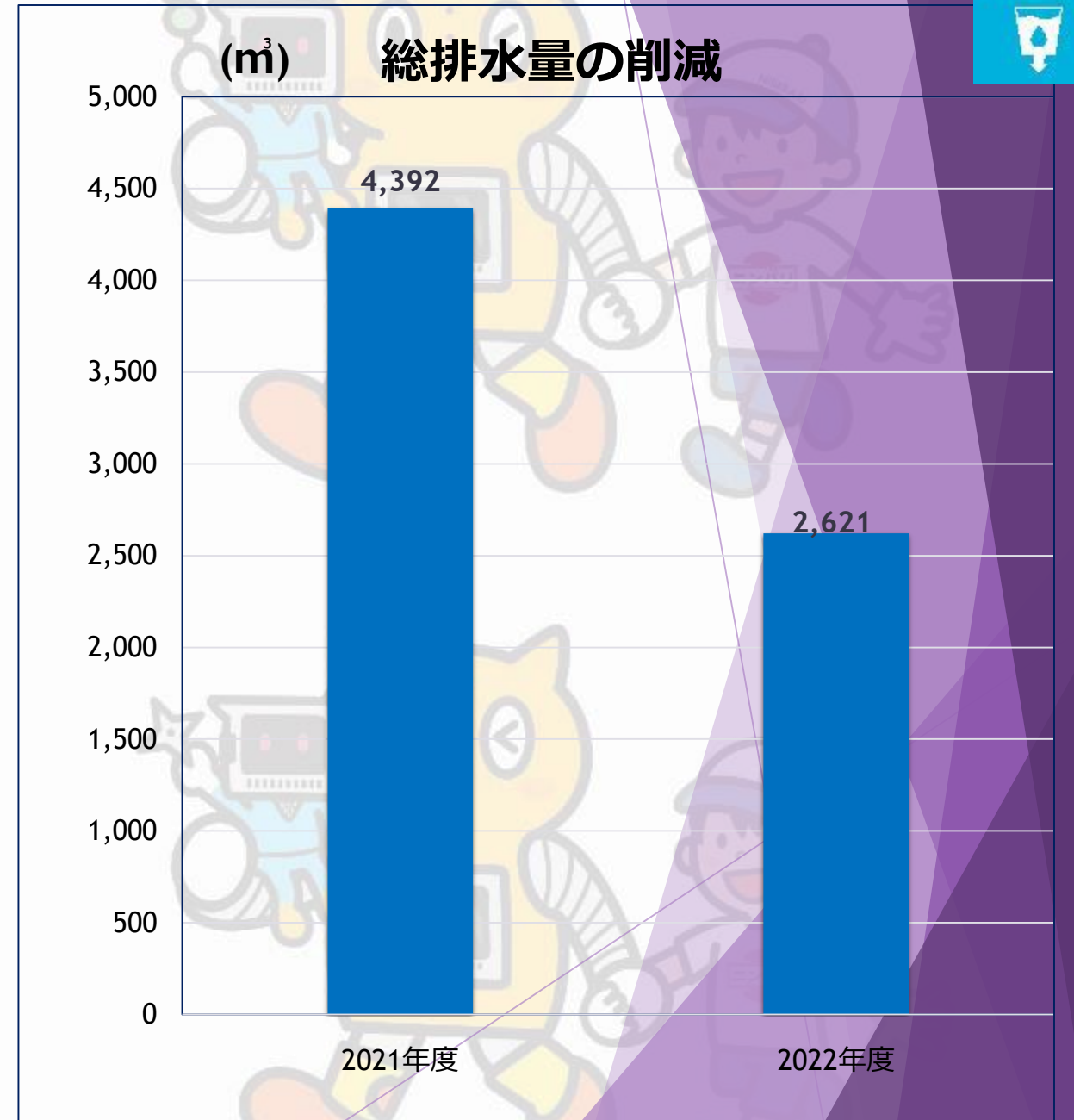
## 6-2 結果と評価（続き）

### E3. 総排水量（水使用量）の削減

水使用量の昨年比は右の通りです

本社の夏場の使用量を抑えることができたため、原単位目標 $2.3\text{m}^3$ に対し $1.5\text{m}^3$ と大幅に減少しました。

次年度も毎月の使用量推移を監視し、ムダやロスの削減に取り組めます。





# 6. 2022年度達成状況

## 6-2 結果と評価（続き）

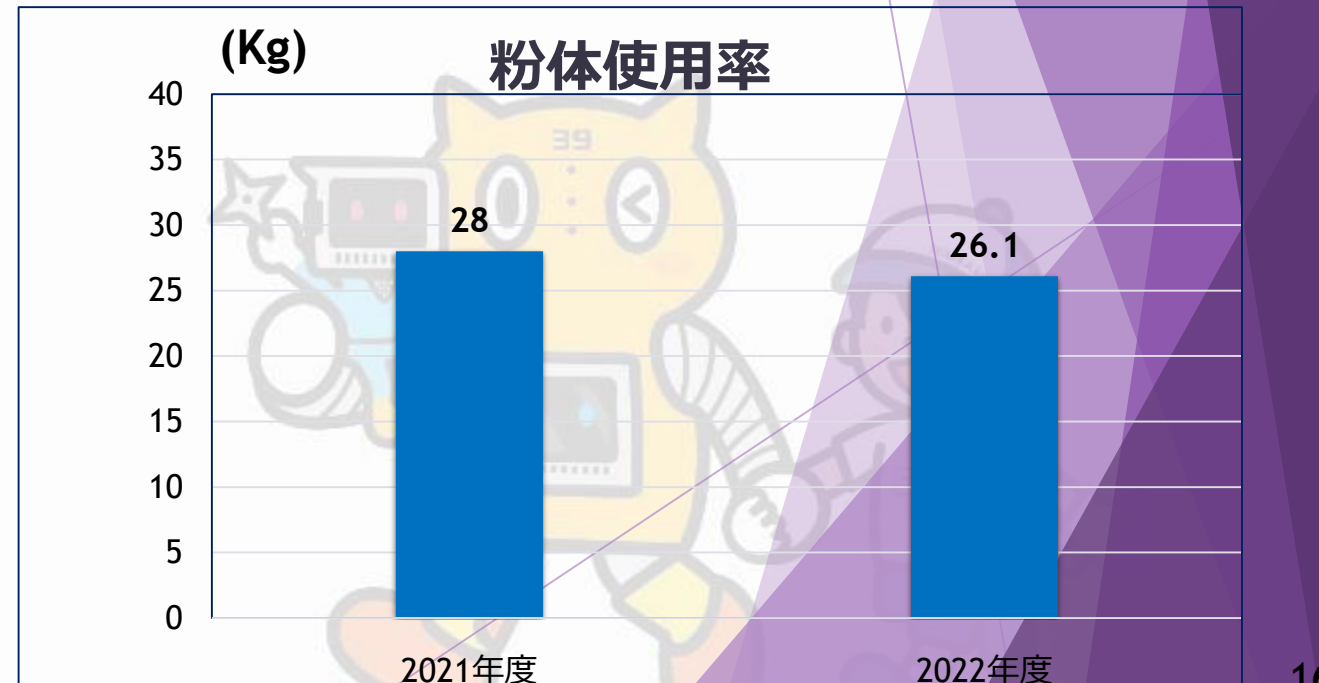
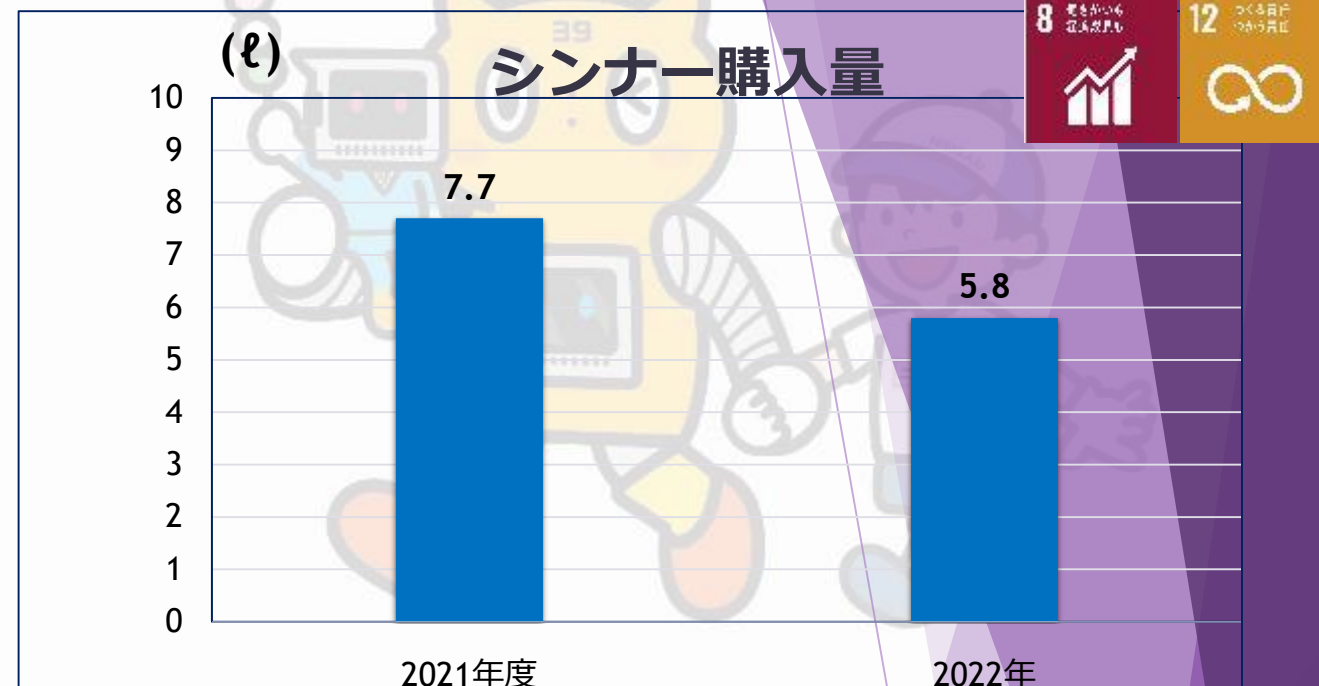
### E4-2. シンナー購入量の削減

前処理の効率的な利用により、シンナー拭きを削減できました。

### E4-3. 粉体塗料（塗装）使用量の変化

使用比率を上げることが出来ませんでした  
が、お客様の塗料に対する関心が高まっ  
てきています。

今後も、粉体塗装への移行提案商品の  
検討を続けます。



# 6. 2022年度達成状況

## 6-3 総量実績推移

	2021年 ベンチマーク	2022年
売上高(百万円)	1,786	1,692
電気(kWh)	1,346,539	909,769
LPG(m <sup>3</sup> )	23,362	23,381
都市ガス(m <sup>3</sup> )	12,316	11,536
灯油(ℓ)	1,162	1,953
ガソリン(ℓ)	3,495	3,437
軽油(ℓ)	9,195	6,773
総量 CO <sub>2</sub> 換算 (kg-CO <sub>2</sub> )	718,345	529,205
原単位 CO <sub>2</sub> 換算 (kg-CO <sub>2</sub> /100万)	399	313
産業廃棄物排出量(kg)	18,795	5,891
水使用量(m <sup>3</sup> )	4,392	2,621
粉体塗料使用比率(%)	28	26.1

# 7. マテリアルバランス

## インプット

エネルギー	
・ 電力	909,769 kWh
・ LPG	23,381 m <sup>3</sup>
・ 都市ガス	11,536 m <sup>3</sup>
・ 灯油	1,953 l
・ ガソリン	3,437 l
・ 軽油	6,773 l
金属材料	
・ 鉄板	2,180,000 kg
・ ステンレス板	121,000 kg
・ アルミ板	1,645 kg
化学物質	
・ 溶剤塗料	15,689 kg
・ 粉体塗料	7,024 kg
・ シンナー	9,856 l
水	
・ 上水道	2,621 m <sup>3</sup>

## 事業活動

営業  
設計・開発  
工程計画  
資材調達  
製造  
物流  
出荷

## アウトプット

二酸化炭素排出量	529,205 kg-CO <sub>2</sub>
リサイクル	
・ スクラップ(鉄)	353,780 kg
・ スクラップ(ステン)	24,903 kg
・ スクラップ(アルミ)	530 kg
・ 引火性廃油・汚泥	21,400 kg
廃棄物排出	
産業廃棄物は、廃プラ・混合等の合計	
・ 産業廃棄物	5,891 kg
・ 木くず	0 kg
・ 一般事業ゴミ	
水	
・ 排水	2,621 m <sup>3</sup>

# 8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

## 8-1 法令遵守状況

適応法令(条例)	該当する項目	遵守状況
廃棄物処理法	保管・委託の適正管理 特別産業廃棄物管理責任者設置 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	適合
大阪府流入車規制条例	トラック	適合
フロン排出抑制法	廃棄時の適正処理 簡易点検 定期点検	適合
下水道法	水質測定	適合
悪臭防止法	トルエン及びキシレンの使用	適合
騒音規制法 振動規制法	ターレットパンチプレス、プレスブレーキ、レーザー複合機、シャーリングマシン、エアーコンプレッサー、窒素発生装置、クーリングタワー	適合
PRTR法	塗料溶剤	適合
その他の要求事項	顧客要求事項	適合

※2022年11月内部監査にて遵守状況確認済

## 8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟の有無

### 8-2 違法・訴訟の有無

違法・訴訟はありませんでした

### 8-3 近隣からの苦情の有無

特にありませんでした。

# 9. 2022年度の取組み

## 9-1 非常事態処理訓練(2022年11月25日)

塗装ブースの循環水流出を想定して、  
緊急事態処理手順書に基づき応急処置  
訓練を実施しました



手順書通り実施し、流出防止処置の  
確認が出来ました。  
※なお、今回の訓練による手順書見直しや  
変更の必要ありませんでした。

# 10. その他の取組み

## 10-1 地域の清掃活動(2022年6月8日)



環境月間の活動として、  
毎年恩智川沿いの道の清掃活動を行  
っています



# 11. マネジメントレビュー

## 11-1 経営者による全体評価

2022年度は1月に東大阪第二工場を返却し設備（タレパン複合機C1）を売却するなど、よりスリムなものづくりを実行できた1年でした。

電気代や鋼材の高騰等により売上は前年比約5%のダウンとなりましたが、東大阪第二工場の返却、工場内のLED化によるエネルギー使用量の削減、労働時間の見直し、委託加工先（外注先）とのリレーション運用等を駆使したことで、昨年とほぼ同等の利益を確保できました。

また、HP内サイトの立ち上げやYouTube作成等の営業活動に加え、自社開発の【タッチレスロッカー】をはじめとし“一貫生産体制”に“自社による製品の設置作業”をプラスすることで、よりお客様に喜んで頂ける体制ができました。

品質状況も改善の方向に進んでおり、「品質と環境が結びついたECOなものづくり」が継続出来ていると感じています。

2022年11月エコアクション21更新審査の結果は適合評価でした。

総合コメントでは働き方の方向性が明確で具体的な取組みが実行されていると評価されました。

また、環境投資計画の検討や一般廃棄物計量等の取組みについてアドバイスを頂きました。



# 11. マネジメントレビュー

## 11-2 次年度に向けて(アクション)

- ・ 環境経営方針、エコアクション21更新審査の改善事項に基づき変更しますが、実施体制は変更しません。  
目標設定は、総量と原単位の2本立て（前年度基準）とします。
- ・ 顧客からのさらなる信頼獲得のため、品質の向上・安定は必須となります。  
“ものづくり” “仕事づくり” “人づくり” の理念をもとに、社員一人ひとりが自主的、積極的に取り組める環境を作ることで、常に最適なものづくりを目指し、そのレベルを上げていくことでECOな体系ができると考えます。

以上

# あしがき

2022年度環境経営レポートを最後までお読みいただきありがとうございます。

新型コロナや物価上昇など、世の中の動向を常に意識しながら取り組んだ1年でした。

暗くなりがちな状況でしたが、全社員に「インフレ手当」が支給されました。

“シンプル” “スリム” を意識した業務改善、LED導入による光熱費削減、チームワークの向上による残業時間の削減で経費削減ができたこと、また新型コロナにより社内行事ができなかったことを踏まえ、支給となりました。

業務のシンプル化、品質の向上はCO2排出削減にも貢献しています。  
来年度も、よりシンプルでムダのない取り組みを進めていきます。

環境事務局 坂本知加恵  
仁張 茂(環境管理責任者)

初版発行 2023.3.31 25